



# となん

### 【学校教育目標】

- [知] 自ら学ぶ意欲を持つ生徒
- [徳] 豊かな心を持つ生徒
- [体] 健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

### 【学校経営目標】

### 【目指す生徒像】

よりよい未来の創造と自己実現を目指し  
学び活動する生徒の育成

発行者：校長 崎山 用彰

☆下中だより「となん」は、  
学校HPから閲覧可能→



### 生徒総会にも触れた言葉……

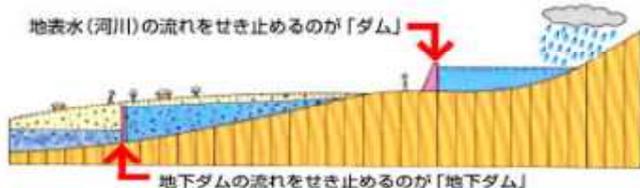
## 『『どうせ無理』の壁を壊し、 よりよい未来への扉を開こう!!』②

前号①の続きです。ご一読ください。

厳しい自然条件、高度な技術、長い年月と莫大な費用。建設が始まる前、あるいは建設途中にも、「本当に完成するのだろうか?」「途中で大きな困難にぶつかって、諦めてしまうのではないか?」……そんな風に思った人も、もしかしたらいたかもしれません。まさに「どうせ無理だ」という声が聞こえてきそうな、巨大な挑戦でした。しかし、多くの技術者や作業員の方々が、知恵を絞り、汗を流し、悪天候にも負けずに努力を続けたのです。「二つの島を繋ぎたい」「島の人々の暮らしをより良くしたい」という強い願いと情熱が、あの困難を乗り越えさせ、日本でも有数の美しい橋を完成させたのです。これは、宮古島が誇るべき「アララガマ精神」の、まさに現代における大きな成果の一つと言えるでしょう。



そして、私たちの足元に広がる地下ダム。宮古島は、大きな川がなく、昔から水不足に悩まされてきました。その水を安定して確保するために、見えない島の地下に巨大な水の器を造るという、世界でも類を見ない壮大なプロジェクトが実行されました。「地下にダムなんて、本当にできるのか?」「そんな途方もない計画、失敗するに決まっている」……



そんな声もあったかもしれませんが、でも先人たちは、宮古島の未来を見据え、この困難な挑戦に踏み出しました。地道な調査、最新技術の導入、そして何よりも「水に困らない豊かな島を次世代に残したい」という熱い思いが、世界に前例のない、前代未聞のプロジェクトを成功へと導いたのです。今、私たちが蛇口をひねれば当たり前のように水を使えるのは、この地下ダムのおかげであり、諦めずに挑戦を続けた人々の努力の賜物なのです。



さらに、時代を遡れば、私たちの祖先は、「人头税」という非常に過酷な税の仕組みに苦しめられていた歴史があります。それは、生まれただけで課せられる税であり、多くの島民の生活を圧迫し、まさに「どうすることもできない」と思えるような、重く暗い壁でした。



しかし、その不条理に対して、「おかしいじゃないか!」と声を上げ、立ち上がった人々がいました。その代表的な人物が、

新潟県上越市出身の中村十作さんです。

→次号③に続きます。